

## 資料 4

### 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」構築推進 のための取組状況について

#### 1 精神障害者に対する取組

国は、障害福祉計画に係る基本指針において、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」（以下「にも包括」という。）の構築を進めることとしている。

これを踏まえ、北区では、令和3年度から保健、医療、福祉関係者による協議の場（以下「協議の場」という。）を通じて、にも包括の構築を進めている。取組内容や検討結果は、自立支援協議会 本会・相談支援部会へ報告や提案をすることとしている。

なお、支援センターきらきら（障害者基幹相談支援センター業務の内、地域移行・地域定着促進事業を受託中）に業務委託で実施している。

#### 2 精神障害者の現状

##### (1) 精神障害者の増加

精神障害者保健福祉手帳の取得者数は増加が顕著であり、平成29年度末時点に対して36.6%増となっている。

障害者手帳所持者数の推移（単位：人）（各年度末時点）

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (11月現在)	伸び率 (対平成29年度)
精神障害者	2,875	3,090	3,394	3,584	3,779	3,970	38.1%増
身体障害者	11,987	12,007	11,871	11,909	11,696	11,723	2.2%減
知的障害者	2,278	2,349	2,407	2,490	2,560	2,632	15.5%増

##### (2) 精神病床における入院者について 出典：地域精神保健医療福祉資源分析データベース（ReMHRAD）

入院者数（北区に住所がある方） (令和2年6月時点)	合計	452	人
	3か月未満（％：構成割合）	91	人
		20.1	％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	82	人
		18.1	％
	1年以上（％：構成割合）	279	人
	61.7	％	
	うち65歳未満	98	人
	うち65歳以上	181	人

精神科病院の入院患者のうち、入院期間が1年以上の北区民は279人。そのうち、65歳以上が181人（約65%）であり、高齢長期入院者への対応が課題となっている。

#### 3 令和4年度の実施状況

下記のワーキンググループで、意見の集約と各事業を実施している。

○にも包括事務局：障害福祉課、支援センターきらきら

※東洋大学吉田先生にも相談、ご協力いただいている。

○コアメンバー：にも包括事務局、都立精神保健福祉センター地域体制整備担当、相談支援センターあらかわ（都事業コーディネート事業者）、健康推進課 滝野川健康支援センター

(1) にも包括構築推進のための協議の場の開催について

精神科病院から地域生活への移行に向けた支援に関する地域の課題や対応策を検討することを主な目的として、現場レベルの協議の場を開催している。

参加者の構成（令和4年度）

No.	区分	備考
1	学識経験者	東洋大学 吉田光爾教授
2	医療	精神科医療機関
3		訪問看護ステーション
4	保健	健康推進課（健康支援センター）
5	福祉	障害者基幹相談支援センター
6		相談支援事業所（計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援等）
7		障害福祉サービス事業所（グループホーム・短期入所・就労継続支援等）
8		生活福祉課（退院促進支援員）
9	事務局	障害者地域活動支援室 支援センターきらきら
10		障害福祉課（障害相談係）
11	アドバイザー	東京都立精神保健福祉センター
12		東京都精神障害者地域移行促進事業 地域移行コーディネーター（相談支援センターあらかわ）

※ 今後は、検討内容等必要に応じて、その他の関係者・機関、障害当事者・家族・ピアサポーターを招集する予定。

令和4年度の協議の場の開催状況は以下のとおり。

日時	内容
令和4年 7月20日	（書面開催） ・昨年度報告 「にも包括」課題と取組のまとめ ・今年度の取り組みについて 北区にも包括ロードマップの提示 入院患者実態調査 調査結果
令和4年 11月21日	（WEB開催） ・北区にも包括の取組状況 第1回書面開催アンケートの説明・ロードマップの説明 入院患者実態調査と二次調査についての説明 ・講義「精神障害者ピアサポート活動について」 講師：東洋大学 ライフデザイン学部 教授 吉田 光爾先生
令和5年 3月7日 （予定）	（対面開催予定）一般公開講座として開催 ・講義・パネルディスカッション 「精神障害者ピアサポート活動について」 講師：東洋大学 ライフデザイン学部 教授 吉田 光爾先生 他自治体のピアサポーター

(2) 精神保健福祉サービスに関するリーフレットの作成・配布（資料あり）

地域生活に必要な社会資源を紹介するリーフレットを作成し、精神科病院、障害福祉サービスの指定一般相談支援事業所、区内の障害相談窓口等で令和5年1月より順次配布。特に医療機関に配布することで、地域移行への動機づけとなることを期待している。

(3) ピアサポーター養成・ピアサポート活動の推進

協議の場で基礎講座を実施し、ピアサポート活動についての普及啓発を行った。

退院後の地域生活の不安解消のため、当事者視点での支援を行うピアサポーター養成を計画していたが、すぐに養成講座を開催するより、他区の状況、当事者や関係機関の意見を取り入れながら、必要な活動について精査していくこととした。

(4) 地域移行に関する実態調査の実施

精神科長期入院の課題をアセスメントするために、令和4年1月にアンケートを都内106病院に送付し74病院から回答を得て、計269人分の状況をまとめた。入院期間が1年以上の患者が169人と半数を占めており、10年以上の患者も45人であった。退院についても133人が希望しており地域移行のためには、入院早期の関わりが必要だということが改めてわかった。

令和5年1月に、入院患者の多い北区、板橋区の病院へ2次調査に行く予定。

4 令和5年度の実行予定

令和5年度も、協議の場を通じて、さらに区と医療機関、障害福祉・介護事業者等との連携体制を強化するとともに、にも包括構築に係る事業を拡充していく。

また、ピアサポーター養成・ピアサポート活動の推進については、当事者の視点での取組が必要である。そのため、ピアサポート養成プロジェクトを立ち上げ、北区のピアサポート活動について当事者とともに検討していく。

精神科入院患者実態調査（訪問調査）では、実態把握をするとともに、医療機関との連携の強化や社会資源の紹介を通して地域移行につながるような働きかけをしていく。